

調査、和解に向けた対応を行って
おりました。

学校設置者である町は学校内で
特別活動の時間として実施したレ
クレーション中の事故であること
から、国家賠償法に基づく責任に
ついては認め、和解に向けて進め
ておりましたが、保護者代理人か
らの損害額の提示が将来にわたる
治療費なども含め、当方提示額と
大きく乖離があつたため、令和4
年8月24日に保護者代理人から訴
訟提起の方針となつた旨の連絡を
受けておりました。その後、約3
年間訴状の提出はありませんでし
たが、本年7月15日に札幌地方裁
判所浦河支部から口頭弁論期日呼
出状および答弁書催告状が町に届
き、訴状が提出されたことが明ら
かになつたものです。

これを受け、町は本件を当初か
ら担当していただいていた弁護士
と改めて代理人としての委任契約
を締結し、対応を進めております。

なお、本件の原告は生徒A、被
告は新冠町の代表者である町長
と生徒Bで損害賠償請求額は
213万1645円となつており
ます。

今後の対応につきましては、損
害額の捉え方に乖離が生じており

ますが、誠意をもつて対応してい
く所存です。

1 「教育委員会点検・評価報告書」 の提出について

この報告書は、「地方教育行政の
組織及び運営に関する法律」の規
定により、「効果的な教育行政を推
進し、地域住民への説明責任を果
たす」ことを目的に、教育委員会
がその権限に属する事務事業の管
理および執行の状況について、点
検・評価を行うこととされており、
例年、その内容を議会に報告しま
すとともに、町のホームページに
おいて公表し、情報公開に努めて
いるところです。

今年度は、令和6年度に教育行
政執行方針で掲げた重点施策に基
づき、教育委員会各課が実施した
事務事業について、学校教育にお
いては各学校における評価なども
踏まえながら内部評価を行った後、
学校運営協議会、社会教育委員協
議会、スポーツ推進委員会、認定
こども園保護者会に外部評価を頂
いたところです。

令和6年度の教育行政の執行に
あたっては、重点施策に基づき、

教育行政報告

計画した事務事業を展開したとこ
ろであります。教育予算全体に
わたりご配慮をいただいた上で、
概ね計画どおり実施できたものと
考えております。

まず、管理課所管の学校教育に係
る事務事業では、「子どもたちを中心
としたウェルビーイングを育む学校
教育の充実」を掲げ、学力向上に繋
げる授業改革、学習環境・生活習慣
の確立、豊かな心を育むための道徳
教育の充実や、いじめ・不登校への
きめ細かな対応、ふるさと新冠を意
識した特色ある教育活動の実践、イ
ンクルーシブ教育の充実に向けた外
部人材との協力や教職員全体での支
援体制の共有、信頼される学校づく
りのための校内組織の強化、エアコ
ン設置など教育環境改善の取り組み、
認定こども園においては、小学校へ
の接続を意識した幼児教育の推進お
よび保育教諭研修の充実など、それ
ぞれ執行方針に基づき教育活動の実
践が図られたと考えております。

また、社会教育課所管事務事業
におきましては、「町民憲章とRe
の精神」を意識した社会教育の推
進として、レ・コード館を中心と
した特色ある社会教育事業の実践、
老若男女問わずスポーツに親しむ
環境づくりの充実、郷土資料館を

中心としたふるさと新冠の歴史や
自然にまつわる学習機会の提供、
少年、青年、成人、高齢者、それ
ぞれの世代に対応した事業など町
民の皆さんのご協力をいただきな
がら、年間を通じた事業展開を図
ることができたと考えております。

2 令和7年度全国学力・学習状 況調査の結果について

4月17日に実施しました全国学
力・学習状況調査について、文部
科学省から結果の公表がありまし
たので、概要を報告します。

本調査は、小学校6学年、中学
校3学年を対象に「教科に関する
調査」として国語、算数・数学、
理科の3教科について実施すると
ともに、「生活習慣や学習環境に関
する調査」として、児童生徒質問
調査を実施しております。

はじめに教科に関する調査につ
いての正答率は、小学校では、国
語は全道、全国と比較すると、と
もに『やや低い』という結果となり、

算数は全道比較で『やや低い』、全
国比較で『低い』という結果となつ
ております。理科は全道比較で『同
様』、全国平均では『ほぼ同様』と
いう結果となりました。

中学校では、国語は全道比較で
『ほぼ同様』、全国比較で『やや低い』
となつており、数学は全道比較『や
や低い』、全国比較で『低い』とい
う結果となつております。理科は
全道、全国比較で『やや高い』と
いう結果となりました。問題の難
易度により平均正答率は上下いた
しますが、総じて全道・全国平均
より低い傾向にある結果となりま
した。

また、各科目で中間層、上位層
の底上げが図られている一方で、
正答率3割以下の児童生徒数が全
国平均を上回っており、理解度の
二極化が顕著に表れております。

次に、児童生徒への質問におけ
る学習習慣等の調査では、小学校・
中学校ともに1時間以上家庭学習
をしている児童生徒の割合が全国
を大きく下回り、不十分であると言
えますが、小学校では昨年度か
ら自分で家庭学習内容を決める「自
立学習」への取り組みを始めてお
り、中学校でも1時間に満たない
時間での家庭学習の取り組み割合

は増加しております。家庭学習の
習慣は、問題の難易度により左右
される正答率とは異なり、子ども
たちの学ぶ姿勢であることから、
家庭とも連携を強化し、「自立した
学習者」の育成を進めていきたい
と考えております。

また、「自分には良いところがあ
る」「将来の夢や目標を持つている」
といった自己肯定感や自己有用感
の質問では、中学校では改善傾向
にあるものの、全国と比較すると
低く推移しております。この点に
つきましては、「子どもを中心とし
たウェルビーイングの向上」を本
年度の教育行政執行方針の最重要
目標の一つに掲げているとおり、
家庭も巻き込んだ取り組みとして
改善を図っていく所存であります。

他の項目では、小学校ではICT
機器の授業での活用、中学校で
は地域の大人との関わりの項目で、
充実割合が高く、小中共通で「授
業中の自らの考えが伝わるよう創
意工夫を凝らして発表の機会に取
り組む」という項目で、全国平均
と比較して高いポイントとなつて
おり、小学校・中学校の連携によ
る成果であると捉えております。

本調査は、児童生徒が身に着け
るべき学力の一部分の傾向である

ことや、調査結果は、学校における
教育活動の一側面でありますこと
から、これらの調査結果と他の様々
な情報を合わせて、総合的に分析・
評価することが必要であり、個々
の設問や領域等に着目して、学習
指導上の課題を把握・分析し、児
童生徒一人一人の学習意欲の向上
につなげることが重要となります。

各校においては、本年度の結果
を踏まえ、校長を中心として、教
職員が詳細な結果分析を行い、共
通認識を持った上で、今後の授業
改善や、家庭学習の定着化に向け
た取り組みを強化していくことに
しております。

また、当町では各校の結果分析
などを受けて、教職員で組織する
小中連携推進会議において、町と
しての分析と課題整理を行った上
で、目標を定め町全体として共通
の取り組みを行います。

3 中体連全道大会および各種大 会の出場結果について

新冠中学校では、本年度、陸上・
卓球・男子バレーボール・サッカー
の4種目が、中体連全道大会への
出場を果たしました。

各種目において健闘し、男子バ
レーボールでは、決勝トーナメント

まで駒を進めました。惜しくも1回
戦で敗退となり、その他の競技も、
1点を争う好ゲームを繰り広げるな
ど、生徒達は日頃の練習の成果を発
揮しながら奮闘しました。

また、吹奏楽部においては、「日
胆地区吹奏楽コンクール」中学校
C編成の部に出場し、「金賞」を受
賞し、「札幌コンサートホールKi
tara（キタラ）」で行われた
全道吹奏楽コンクールへと駒を進
めました。全道大会の結果は銀賞
の受賞となり、生徒たちが部とし
て掲げていた金賞受賞には惜しく
も届きませんでした。出場25校
中どの学校にも引けを取らない
堂々とした演奏でした。

各種大会へ出場した生徒たちは、
緊張感溢れる会場において、技術
力や精神力の面で多くのことを学
ぶ貴重な経験になったものと捉え
ております。

4 新冠小学校で発生した教員によ る不適切な指導（体罰疑い）について

昨年度から今年度にかけて、新
冠小学校において、同じ教員が計
3度にわたり、児童に対し体罰疑
いのある不適切な指導を行ったも
のであります。

最初の事故は、令和6年10月29